

モデル仕様書（高等学校入学者選抜手続）

■概要

高等学校入学者選抜手続は、出願準備・願書の提出・入学検査料の納付・受検票の出力・可否の通知や確認等、高校入試における一連の手続きがオンライン上で可能なシステムです。このシステムでは、検査料のオンライン納付などにより、紙の書類提出や郵送手続きが不要となり、出願手続き等の負担軽減が期待されます。同時に、受験者情報等を一元管理することで、中学校と高等学校間における情報共有を円滑にし、伝達漏れの防止、業務効率化が期待されます。

機能分類体系			モデル仕様書・要件定義	
大項目	中項目	小項目	要件	詳細要件・補足説明
■基本要件				
基本事項	サービス提供環境	機器環境	利用者側及び管理者側の機器環境として、指定する機器環境に対応すること。	別紙「福島県立学校入学者選抜WEB出願システム構築・調達業務委託仕様書（プロポーザル用）」（以下、「仕様書」とする。）の「3 調達要件」「(3) 各サイトの共通要件」のとおり。
		ネットワーク環境	サービスを提供するネットワーク環境及び通信経路の暗号化について指定する要件に対応すること。 提案する内容が要件と異なる場合は、その理由やネットワークセキュリティ面で問題ないことを示すこと。	「仕様書」の「3 調達要件」「(1) システム環境」のとおり。
		データ管理	データ管理環境について指定する要件に対応すること。 提案する内容が要件と異なる場合は、その理由やデータセキュリティ面で問題ないことを示すこと。	「仕様書」の「3 調達要件」「(2) 個人情報保護・セキュリティ要件」のとおり。
			データのバックアップに関して指定する要件に対応すること。 提案する内容が要件と異なる場合は、その理由やデータセキュリティ面で問題ないことを示すこと。	「仕様書」の「3 調達要件」「(1) システム環境」のとおり。
			サービス利用者の端末故障時や機種変更時のデータ引継ぎが配慮がされていること。	－
		サービス提供時間	指定する時間帯で利用可能とすること。	出願期間中は、メンテナンス時間を除き24時間利用できること。その他期間中においては、5：00～翌0:00の間利用できること。
	ライセンス・ユーザ数等	利用者側ユーザ数	利用者側アカウントライセンスが必要となる場合は、指定する要件に対応すること。	利用者ユーザー数：14,000アカウント以上
		管理者側ユーザ数	管理者側アカウントライセンスが必要となる場合は、指定する要件に対応すること。	中学校職員：200アカウント以上 高校職員：70アカウント以上 県職員：2アカウント以上
	デザイン・操作性	デザイン・操作性	表示画面上の項目配置や色使い等、誰もが利用しやすいユニバーサルなデザインであること。また、利用者およびサービスを提供する管理者双方にとって、わかりやすい操作性が確保されていること。	・利用者にとって分かりやすい簡易なレイアウトとすること。 ・自治体のサービスであることが分かりやすく伝わる工夫があること。
		アクセシビリティ	「JIS X8341-3：2016」が規定する「レベルAA」に準拠するなどアクセシビリティに配慮したデザインであること。	－
		視覚障害者支援	視覚障害を持つユーザーの操作を補助するように配慮することが望ましい。	－
		多言語対応	指定する言語に対応すること。	－
	情報セキュリティ	認証資格	情報セキュリティに関して指定する認証制度・評価制度に対応すること。	次の認証制度・評価制度に対応すること。 ・ISMS ・プライバシーマーク
		データセンター	・データセンターは Tier 3 または4相当であり、建築基準法（昭和 25 法律第 201 号）の新耐震基準に適合していること。 ・データセンターの物理的所在地を日本国内とし、情報資産について、合意を得ない限り日本国外への持ち出しを行わないこと。	－
		個人情報・情報セキュリティの遵守	個人情報・情報セキュリティに関する法令および条例等を遵守すること。	「仕様書」の「(2) 個人情報保護・セキュリティ要件」の①のとおり。
		システムログ	エラー情報の把握やUI/UXの改善に必要なログ情報を取得すること。	エラー情報の把握やUI/UXの改善に必要なログ情報を取得すること。
		アクセス・操作ログ	管理システムのアクセスログ・操作ログを取得すること。	管理システムのアクセスログ・操作ログを取得すること。
		不正プログラム対策	システム（サービス）の稼働環境及び開発・テスト環境においては、コンピュータウィルス等不正プログラムの侵入や外部からの不正アクセスが起きないよう対策を講じるとともに、それら対策で用いるソフトウェアは常に最新の状態に保つこと。	システム（サービス）の稼働環境及び開発・テスト環境においては、コンピュータウィルス等不正プログラムの侵入や外部からの不正アクセスが起きないよう対策を講じるとともに、それら対策で用いるソフトウェアは常に最新の状態に保つこと。
			システム（サービス）の稼働環境及び開発・テスト環境で用いるOSやソフトウェアは、不正プログラム対策に係るパッチやバージョンアップなど適宜実施できる環境を準備すること。	システム（サービス）の稼働環境及び開発・テスト環境で用いるOSやソフトウェアは、不正プログラム対策に係るパッチやバージョンアップなど適宜実施できる環境を準備すること。
		その他セキュリティ対策	個人情報の保護に配慮するなど、利用者が安心して利用できる対策を実施していること	個人情報の保護に配慮するなど、利用者が安心して利用できる対策を実施していること
		データ移行	－	現行システム（サービス）で保有するデータを、新システム（サービス）の初期データとして移行（登録）すること。
			将来的なシステム移行等に備え、保持するデータについてはデジタル社会推進標準ガイドラインにある政府相互運用性フレームワーク（GIF）に準拠するなど標準的なデータモデルに沿った形にすること。	－
	サービス終了時・契約満了時等の対応	保有データの提供	サービス開始後に利用者が入力した情報及び発注者が登録した情報のうち、発注者が情報管理権限を有する情報（発注者が提供を希望する情報）については、契約終了時に全て抽出し発注者に提供可能とすること。	－
		保有データの消去等	サービスの利用を終了、若しくは、サービス利用契約終了後は、発注者が提供を希望する保有データを提供したのち速やかにシステム（サービス）から消去すること。消去においては、復元不可能な状態にすること。	データはすべて消去すること。その際、当該作業完了報告を提出すること。
		オプトアウト対応	利用者からの申し出により、当該利用者に関する情報を全部または一部削除できる機能。	利用者からの申し出により、当該利用者に関する情報を全部または一部削除できる機能。

※1：自治体にとって必須と思われる機能

※2：場合によって必須となる機能：自治体によって業務上必要となる場合は必須となる機能

※3：今後1～2年程度で実装が望まれる機能

回答欄				
(事業者名)				
(サービス名)				
必須機能 ※1	場合によって必須となる機能 ※2	今後拡張が望まれる機能 ※3	対応可否	実装状況・対応状況を記載する欄
対応可の項目に○を記入ください				
○				
○				
○				
○				
	○			
○				
	○			
	○			
○				
		○		
		○		
		○		
	○			
		○		
○				
○				
○				
○				
○				
○				
	○			
		○		
		○		
○				
○				

モデル仕様書・要件定義					必須 機能 ※1	場合によって 必須となる機能 ※2	今後拡張が望まれる 機能 ※3	回答欄		
機能分類体系				(事業者名)						
太項目	中項目	小項目	要件	詳細要件・補足説明				(サービス名)		
								対応可否	実装状況・対応状況を記載する欄	
	利用規約等	利用規約への同意	サービスの初回利用時やサービスに重要な変更を行った際には、利用者に利用規約の内容を提示し、確認（同意）をとることができること。	サービスの初回利用時やサービスに重要な変更を行った際には、利用者に利用規約の内容を提示し、確認（同意）をとることができること。	○					
		自動取得情報への同意	機器の個体番号やGPS位置情報等、利用者がサービスを利用した場合に自動的に取得する情報を明示するとともに、それら情報取得について同意を得ることができること。但し、利用規約の確認に含んでいる場合は、本要件の対応は不要である。	—		○				
		プライバシーポリシー	プライバシーポリシーを表示すること。	プライバシーポリシーを表示すること。	○					
	問い合わせ機能	—	サービス内の問い合わせフォームなどから、問い合わせを行うことができること。	サービス内の問い合わせフォームなどから、問い合わせを行うことができること。	○					
	統計機能	—	システム・サービスの運用状況や利用状況を定期又は任意の時点で集計する機能があること。	集計するデータは次のとおりとする。 ・登録者数 ・アクティブ利用者数 ・機能ごとの利用数 など	○					
	関係法規制への対応	—	サービスの稼働、運用・提供に関係する関係法規制を遵守するとともに、常に最新動向を把握し、適宜必要な見直し・改善を実施すること。	—			○			
資格管理	利用者側アカウント管理	管理情報	利用者（志願者）情報を登録・管理できること。	志願者アカウント登録に必要な情報は次のとおりとする。 ・氏名、現住所、生年月日、在籍（出身）中学校、クラス、出席番号、メールアドレス など	○					
		アカウント登録・設定	利用者（志願者）アカウントは、指定する方法により登録・設定できること。	・志願者のアカウントIDは、本システム内のみで利用する独自のIDとし、他の利用者と同一のIDを登録できないように制御すること。 ・管理者側で志願者アカウントの一括発行が可能なこと。 ・県外の志願者は、県教育委員会サイト等で許可を得た後に、アカウント登録を可能とすること。	○					
		アカウント認証方法	利用者（志願者）アカウントは、指定する認証方法（再認証も含む）に対応すること。	・ID、パスワードで認証できること。 ・認証時に登録されたメールアドレスに（又は登録した携帯電話にSMSで）認証用コードを送信し、そのコードを入力することにより認証する２段階認証に対応すること。	○					
			マイナンバーカードの公的個人認証サービスを用いたログインに対応すること。	—			○			
			利用者がパスワードを失念した場合、利用者自らがパスワードの再設定やパスワードの確認ができること。	利用者がパスワードを失念した場合、利用者自らがパスワードの再設定やパスワードの確認ができること。	○					
		アカウント情報の修正・停止（廃止）	利用者自身がアプリ上でアカウント情報の修正・停止（廃止）を行えること。	利用者自身がアプリ上でアカウント情報の修正・停止（廃止）を行えること。	○					
		管理者側アカウント管理	管理情報	管理者側アカウントは、中学校職員用、高等学校職員用、都道府県職員用として、指定する情報を登録・管理できること。	管理者側利用者登録に必要な情報は次のとおりとする。 ・氏名、所属学校名（所属名）、メールアドレスなど	○				
	アカウント登録・設定		管理者側アカウントを登録・設定できること。	・在籍校及び県立学校側のアカウントIDとしてメールアドレスを利用して登録できること。 ・システム管理者（学校毎のシステム管理者含む）が、管理者側アカウントを発行することができること。 ※システム管理者等の依頼による委託者等の作業も含む ・登録できるアカウント数には上限を設けることができること。	○					
	アカウント認証方法		管理者側アカウントの認証方法（再認証も含む）について、指定する要件に対応すること。	・ID、パスワードで認証できること。 ・認証時に登録されたメールアドレスに（又は登録した携帯電話にSMSで）認証用コードを送信し、そのコードを入力することにより認証する２段階認証に対応すること。	○					
	アクセス制御		管理者側アカウントの登録情報等を利用して、指定するアクセス制御に対応すること。	・在籍校及び県立学校側のアカウント毎に、使用可能な機能の制御が出来ること。	○					
	アカウント情報の修正・停止（廃止）		システム管理者（学校毎のシステム管理者含む）が管理者側利用者アカウント情報を確認・停止（廃止）、削除ができること。	システム管理者（学校毎のシステム管理者含む）が管理者側利用者アカウント情報を確認・停止（廃止）、削除ができること。	○					
	不正ログイン対策		不正ログインを防止する対策を講じること。	システム管理者（学校毎のシステム管理者含む）のアカウントについて、同一IDでの同時ログイン操作の制御をすること。	○					
	■機能要件									
	志願者側機能	出願	願書の入力（登録）	志願する高校、学科等を選択できること。	高校、学科等の選択条件は次のとおりとする。 ・有効な受付期間となっている選抜方式のみが選択できること。 ・各志望学科を重複選択することができないこと。 ・同一高校内であれば特色選抜と一般選抜で異なる学科（コース）を選択できること。 ・一般選抜で第２志望のある高校を選択した場合、その高校に対応した第２志望をプルダウンで選択できること。 ・一般選抜において第１志望学科、第２志望学科に表示する値は、各高校別に設定が可能であること。また、第１志望学科（コース）で選択した内容によって第２志望学科（コース）の学科が確定するなど、段階的な設定が可能であること。	○				
選択した高校・学科等に応じて、願書の情報を入力できること。				願書に入力する情報は、次のとおりとすること。 ア 志願者氏名及びフリガナ イ 生年月日（年度末までに15歳に満たない生年月日を登録できないよう制御すること。） ウ 志願者現住所の郵便番号・住所 エ 保護者氏名及びフリガナカ 保護者の志願者との続柄 オ 保護者現住所の郵便番号、住所 カ 電話番号 キ 出身中学校等名（都道府県を選択すると、当該所在地の中学校の一覧が表示されること。） ク 通学区域 ケ 卒業年月 など	○					
			願書を入力する際、アカウント情報として登録した情報は初期表示されること。	—	○					

機能分類体系				モデル仕様書・要件定義		必須機能 ※1	場合によって必須となる機能 ※2	今後拡張が望まれる機能 ※3	回答欄	
大項目	中項目	小項目	要件	詳細要件・補足説明	（事業者名）					
					（サービス名）					
									対応可否	実装状況・対応状況を記載する欄
		書類添付	顔写真の画像データをアップロードできること。	通信制の課程入学者選抜について、顔写真の画像データをアップロードできること。	○					
			自己申告書や志願理由書等の添付が必要な場合は、読み取り可能なファイルで自己申告書や志願理由書等をアップロードできること。	特色選抜志願理由書等をPDFやMicrosoft Excel等でアップロードできること。		○				
		入力チェック	入力必須項目、入力形式等のチェックを行い、不備がある場合は登録できないようにすること。	未入力の項目や背反となる入力があった場合は、当該項目にエラーが表示され、次の手続きに遷移しないよう制限すること。	○					
		一時保存	願書の内容を一時保存することができること。	・願書の内容を一時保存して、中学校の担任等が確認できること。	○					
		学校確認	一時保存した内容を在籍校の教員にデータで共有できること。	・中学校の教員の確認のため、中学校にデータを共有すること。		○				
		願書の提出等	入力（登録）した願書の承認状況を確認できること。また、願書が承認された後、願書の提出が行えること。	・願書が承認される前であれば、出願情報の変更・取り下げができること。	○					
			出願した情報を在籍校に報告できること。	－		○				
			願書の提出後は、入学考査料の決済に関する案内が表示されること。	志願者データの登録後に、入学検定料の決裁に関する案内が表示されること。		○				
			同一日程では、複数の高等学校等に出願できないよう制御できること。	同一日程では、複数の高等学校等に出願できないよう制御できること。		○				
			願書提出後、提出が完了したことを確認できること。	・登録したメールアドレス宛に提出完了である旨を示すメールを送信できること。 ・システム画面から、提出完了であることを確認できること。		○				
	入学考査料の確認・納付	入学考査料の確認	入学考査料は、志願先の高校や入試種別により、対応する金額、納付期日が表示されること。	入学検定料は、志願先県立学校に応じて金額等が表示されること。	○					
		入学考査料の納付	志願者が入学考査料の決済方法を選択し、システム上から、若しくは決済システムと連携し決済できること（二重納付を防止する措置を取ること）。	次の決済（納付）方法に対応すること。 ・クレジットカード ・ペイジー ・コンビニエンスストア　　など		○				
			納付済みであることが確認できること。	・志願者がメールやシステム上で確認できること。 ・システム画面から、納付済であることを確認できること。		○				
	願書提出後の機能	願書内容の確認	提出した願書の内容を確認することができること。	出願情報をPDFファイルで出力できること。	○					
		志願変更	志願変更の申請ができること。	志願変更に関する条件は次のとおりとする。 ・志願変更受付期間を設定できること。 ・同一の選抜において、先に出願した第1志望の学校、学科・コースに再度出願することができないよう制御できること。		○				
		受検票の出力	高等学校で受検票が発行された後、受検票をPDFファイルで出力できること。	中学校において、一括して出力することが可能であること。			○			
	合否確認	合否確認	合否結果をシステム上で確認できること。	「仕様書」の「3　調達要件」「6　合否等情報照会システム」のとおり。		○				
	入学決定後	書類提出	高等学校からデータ送付された入学申し込みに必要な書類に入力し、入学予定の高等学校にデータで返送できること。	－			○			
		進学先報告	進学予定の学校を在籍校に報告できること。	－			○			
中学校側機能 （中等教育学校入試の場合は、必要に応じて小学校に置き換えることができる）	出願状況管理	願書一覧の確認	自校に在籍する志願者の願書の一覧を確認できること。また、願書入力しているか、志望校登録しているか、考査料払っているか等の出願状況も確認できること。	・一覧表示する条件（抽出、表示順序）を指定できること。 ・年度やクラス、選抜種別、課程、学科、コース毎などで一覧表示できること。 ・クラス、出席番号順、氏名順などで並び変えて一覧表示できること。 一覧表示した願書情報をPDFファイルやCSVファイル等で出力できること。	○					
		願書内容確認	自校に在籍する志願者の願書の内容を、志願者からの求めに応じて確認、修正（志願者への差し戻しによる修正を含む）できること。	志願者の入力間違い等で志願者情報・志願情報に修正が必要な場合、中学校による差し戻し後、修正が可能であること。	○					
			確認・修正した内容を志願者にデータで共有できること。	志願者から内容の確認を求められた際、確認・修正した内容を志願者にデータで共有できること。		○				
		在籍確認	願書情報を校務支援システムの情報と突合（マッチング処理）することにより、自校に在籍している生徒か確認できること。	－			○			
		出願の承認	自校に在籍する志願者の出願を承認できること。承認は、一括処理が可能であること。	志願者の入学検定料納付を確認した後に、出願を承認できること。	○					
			自校に在籍する志願者について、志願取り下げ及び再出願の申請ができること。	－		○				
		調査書情報等の登録	志願者の調査書等情報が在籍校から志望校に読み取り可能なファイルで共有できること。	「仕様書」の「3　調達要件」「5　調査書電子化システム」のとおり。	○					
	合否確認	合否確認	自校に在籍する志願者の合否結果が参照できること。	「仕様書」の「3　調達要件」「6　合否等情報照会システム」のとおり。	○					
	合格後の機能	入学必要書類の送付	在籍する生徒の健康調査票・申込事項等入学に必要な学校から送るべき書類を進学予定校にデータで送付できること。	－			○			
	その他	データ出力	出願情報の情報をCSVファイル等で出力できること。	出願入力状況を把握するなど、任意の項目のみを抽出したCSVデータの出力が可能なこと。	○					

モデル仕様書・要件定義					必須機能 ※1	場合によって必須となる機能 ※2	今後拡張が望まれる機能 ※3	回答欄			
機能分類体系			要件	詳細要件・補足説明				(事業者名)			
大項目	中項目	小項目						(サービス名)			
								対応可否	実装状況・対応状況を記載する欄		
高等学校側機能 (高等学校は、必要に応じて中等教育学校に置き換えることができる)	出願状況確認	願書一覧の確認	自校への志願者に係る願書の一覧を確認及び出力ができること。	・一覧表示する条件（抽出、表示順序）を指定できること。 ・願書の年度・選抜方式毎などで一覧表示できること。 ・一覧表示した願書情報をPDFファイルやCSVファイル等で出力できること。	○						
		願書内容確認	自校への志願者に係る願書の内容を確認できること。	表示した出願内容をPDFファイルやCSVファイル等で出力できること。	○						
			志願変更履歴が確認できること。	他校から自校に志願変更した者及び自校から他校に志願変更した者の志願変更履歴が参照できること。		○					
		受検番号付番・受験票発行	入学考査料の納付が完了した志願者に対して、受検番号を自動又は任意の時点で付番できること。	・自動採番、手動採番のいずれも可能であること。なお、受験番号は県教育委員会が指定する桁数で、各高等学校において指定することが可能であること。 ・受検番号が付番された時点で、該当する志願者（受検者）に受検票が出力可能であることを通知すること。	○						
			高等学校（または設置者）において、願書情報をもとに受験票、写真票等をPDFファイルで出力できること。	志願者の受験票を、P D F ファイルとして出力可能とすること。	○						
		願書の承認等	出願の承認等ができること。	・自校から他校に志願変更する志願者の志願変更願（甲）を受け取ったとき、出願の承認ができること。 ・自校への願書（志願変更願）について、状態を一括又は個別に「高校確認済」「調査書受領済」「高校承認済」に変更できること。 ・中学校が未承認の出願について、高等学校等で承認できること。 ・高等学校等で承認後に願書情報の修正が必要な場合、中学校承認の解除ができること。 ・高等学校等で承認後に志願先が変更となる場合、高等学校承認の解除ができること。 ・高等学校等の承認は二段階で行い、二段階目の承認後、出願登録完了の扱いとなること。 ・高等学校等の承認は、一括処理ができること。	○						
		願書情報の編集	出願情報の編集等ができること。	・自校への志願者に係る次の情報を選抜日程、課程、学科、コース毎に個別及び一覧形式で表示し、編集できること。 ・自校への志願者について、志願者ごとに備考欄（自由記述欄）を設け、入力できること。 ・自校への志願者のうち、入学考査料の免除申請承認を行った場合、その志願者の支払状況をシステム上から変更できること。	○						
	入学者選抜試験実施後	自動採点	入学者選抜試験を自動で採点できること。	—			○				
		採点結果の入力	採点結果を入力（登録）・編集できること。	学力検査結果を、CSVファイル等を用いて一括登録できること。			○				
			採点結果を確定できること。採点結果は採点結果入力期限以後編集できないこと	—			○				
		合否結果等の登録等	自校の志願者への合否結果を入力（登録）・編集できること。 また、合格者の辞退の情報を入力（登録）・編集できること。	・合否結果や学力検査結果、入学の有無を個別に入力・編集できること。 ・合否結果や学力検査結果、入学の有無は、CSVファイル等を用いて一括登録できること。 ・登録する合否情報は、「合格」、「不合格」のいずれかとする。	○						
			志願者に対して合否結果を通知できること。	・HPに受験番号一覧で合格者を掲載できること。 ・志願者ここにメールまたはマイページで合否を案内できること。	○						
			高等学校から中学校に対して、在籍する志願者の合格者一覧が送付できること。	在籍する志願者の合否、合格した選抜の名称を閲覧可能とすること。		○					
			合否データから合格者の情報を校務支援システムへ連携できること。 志願者が合否結果のページを参照したか確認できること。	合格者氏名、現住所などの情報を、CSVまたは Microsoft EXCEL により各県立学校が利用している校務支援システムに、取り込むことを可能とすること。 志願者の合否等情報の閲覧状況を確認できること。			○				
	書類の作成	指定する書類が出力できること。	出力する書類は次のとおり。 ・合格通知書 ・入学辞退届 ・その他、高等学校及び県教育委員会が指定するもの	○							
	入学決定後	書類提出	合格者に対して、入学申し込みに必要な書類をデータで送付できること。 また、入学申し込みされた入学予定者に対して入学許可書（入学式案内等）をデータで送付ができること。	—			○				
	その他機能	志願者等への通知機能	志願者（受検者）および在籍中学校宛てにお知らせ情報を伝達する手段が用意されていること	・メール送信時には氏名、志願先課程・学科・コース、出身中学校、入学者選抜料決済状況、調査書受理状況等により送信先を検索・指定できること。 ・一斉メールは、1人ずつ別々に送付するか、BCCによって送付されること。 ・志願者サイトに掲載可能な高等学校からのお知らせ情報を登録できること。 ・高等学校等で承認後、志願者と出身中学校それぞれに承認済の通知をすること。		○					
		データ出力	入学予定者等の情報をCSVファイル等で出力できること。	入学予定者等の、任意の項目のみを抽出したCSVデータの出力が可能なこと。	○						
	都道府県教育委員会側機能	マスタ管理	マスタ管理	指定する情報を確認・管理できること。	・年度ごとの選抜方式 ・願書の対象となる学校 ・学校別受験コースなど	○					
		志願状況等の確認・編集等	志願状況等の確認	志願状況や受験状況等の確認及び出力ができること。	・学校別の出願情報がC S V ファイル等で出力できること。 ・任意の時点の出願者数を集計したデータがCSVファイル等で出力できること。 ・各選抜の志願状況及び受験状況を学科別、学校別でC S V ファイル等に出力できること。 ・入学願書受付簿、収入簿を確認できること。	○					
願書情報の編集			指定する内容について願書情報の編集ができること。	・選抜料未納の志願者に対して、納入済みに変更が可能なこと。		○					
その他機能		志願者への通知機能	志願者（受検者）宛てにお知らせ情報を伝達する手段が用意されていること。	・予め文面を複数用意出来、選択して送信できること。		○					
		データ出力	入学予定者等の情報をCSVファイル等で出力できること。	入学予定者等の、任意の項目のみを抽出したCSVデータの出力が可能なこと。	○						